

# 春の多摩川

## 凡例

植生	記号
自然の草地	駐車場
樹林	お手洗
タケ・ササ地	危険なところ
水面	大きなめだつ木
砂のれき地	
基盤のあらわれているところ	
人工改変地(公園など)	

## 土手の桜並木

五日市線の鉄橋から橋脚にかけての土手の上は、桜並木となっています。この土手の桜はソメイヨシノと呼ばれる園芸品種で、野山に自生している桜ではありません。春に一斉に咲きほころぶ姿は見事なものです。福生市では市民による「ふっさ桜まつり」が毎年行われており、たくさんの人出でにぎわいます。

ちょうど桜の花の美しい頃は他の多くの草木の芽吹きや花が見られる好機でもあります。お花見がてら足元の野草や頭上の樹々のこずえを観察してみてください。



ふっさ桜まつり



スギナ、オシコブシ

## 河原のヤナギ林

多摩川の河原で、春真っ先にうす緑色に芽吹いているのはヤナギです。世界には約350種類のヤナギがあり、日本ではそのうちの約40種類がみられます。公園や街路樹でおなじみで、昔の霊園の樹などにも登場するのはシダレヤナギですが、そのほかにもこんなに多くのヤナギの種類があることを知っていましたか。

これらのヤナギのほとんどが、川の近くで生活しています。大雨が降ったりすると、川は水かさが増して、ヤナギは水中に沈んでしまったり、流れてきた砂に埋まってしまうことがあります。しかし、ヤナギは他の植物に比べて、水中で長時間耐えられたり、成長が早い性質をもっているため、傷ついた埋まったりしても、復活することができます。折れた枝から根を出すこともあります。ヤナギは河原の環境に適した植物なのです。

多摩川では、タチヤナギ、イヌコリヤナギ、オノエヤナギなどをみることが出来ます。これらの3種類のヤナギは、水の流れて沿って生えています。これは、種が川を流れて岸に漂着するからだと考えられます。ときおり河原の真ん中や堤防のすぐ横で、大きく育ったヤナギを見つけたことがあります。これは、昔そのそばが流路だったことを示しています。ヤナギの株を見つけたら昔の川の景色を想像してみてください。

イヌコリヤナギ 果実



エノキギシ、花、コメツブツメクサ、マメ科の帰化植物で1年草です。多摩川では水かさの多い河原でよく普通に見られます。カテンソウ、ニセアカシアやタチヤナギの林下にみられます。



イヌナズナ、カテンソウ、クサノオウ

## カエルの卵塊とオタマジャクシ

清流の早瀬の石の上で鳴くあのカジカガエルの声を、仮に仮公園と柳山公園の下の多摩川で聞くことがあります。また、アマガエルの鳴き声を多摩川付近で耳にしたこともあります。どちらも最近ではとても珍しいことです。

その反面、街中の池や川の水たまりに産卵し集まるヒキガエルの「カエル合戦」や水田のトノサマガエル（正しくはトウキョウツルマガエル）の鳴き声が聞こえませんか。どうしてなのでしょう。

カエルのこどものオタマジャクシが育つとく深い水たまりは、多摩川にもそう多くはありません。右の表とマップで確認してみてください。



ニホンアカガエル

## オタマジャクシの育つところ

- ・ニホンアカガエル(アカガエル) 一部のわんど(川の入江) わき水(伏流水) だまり2カ所
- ・ヒキガエル(ガマガエル) 一部のわんど 対岸(あきる野市)の池沼
- ・ウシガエル(食用ガエル) あちこちのわんど 対岸の池沼
- ・ツチガエル(イボカエル) 一部のわき水(伏流水) だまり なが、親ガエルは日当たりの良い水が流れてしまいうような小さな浅い水たまりを産卵場所に選ぶのが考えられます。



ウマノアシガタ、チガヤ、イタドリ 新芽、ヘラオオバコ、ヒメオドリコソウ



オオシコブシ、オオシコブシ、オオシコブシ、オオシコブシ、オオシコブシ

# 福生の自然 ガイドマップ

## 河原の生き物編



羽化直後のツツクボウシ、カワラニガナ



福生市位置図

福生の自然ガイドマップ  
 一河原の生き物編—春・夏版  
 調査・編集/福生市郷土資料室  
 発行 福生市教育委員会  
 平成8年3月31日  
 〒197 東京都福生市開川1850-1  
 印刷 精興社



# 夏の多摩川

## 凡例

植生	記号
自然の草地	<b>P</b> 駐車場
樹林	<b>お</b> お手洗
タケ・ササ地	<b>X</b> 危険なところ
水面	<b>▲</b> 大きなめだつ木
砂・れき地	<b>▲</b> 湧水・伏流水の出口
基礎のあらわれているところ	<b>—</b> 水路
人工改変地(公園など)	<b>---</b> みえない水路



## セミしぐれ

真夏の太陽がジリジリと照りつける頃、加美上水公園などの多摩川沿いの林やハゲの林、それに奥防の笹並木の下を歩いてみましょう。あたり一面、騒々しくいらのセミしぐれにつつまれます。

よく聞いてみると、時期や場所によって違った鳴き声が聞こえます。

・7月ごろ  
最初に聞くのがニイニイゼミ(ニイニイーとかチーチー)です。鳴き声が小さく聞き分けにくいこともあります。福生での生息数は少ないようで、加美上水公園と熊川団地で聞けるくらいです。

・8月ごろ  
ヒグラシ(カナカナカナ・ケケケケ)の音が聞こえます。加美上水公園や柳山公園と熊川団地で数回の鳴き声が朝夕に響いているようです。

ツツクボウシ(オーシンツツク)は市内では最も普通に見られ、どこでも声が聞こえます。8月過ぎまでにぎやかです。

アブラゼミ(シージー)とミンミンゼミ(ミンミンミン)もごく普通に市内でみられるセミです。

クマゼミ(シャーシャーシャー)は、元来西日本にすんでいたセミで市内では数が少ないのですが、8月中旬ごろに南田園そのハゲでまれに声を聞くことができます。



## トンボ(成虫)の見分け方 Q&A

Q1 トンボのめがねは水色めがね?  
A ほとんどに水色(青色系)の大きな複眼をもつ種類が多いのですが、栗茶(赤色系)のものもあります。

Q2 トンボの2つの複眼は離れている?  
A ほとんどに離れている種類もありますが、両眼がふれ合っているものもあります。

Q3 前翅と後翅の形は似ている?  
A このことがトンボの大きなグループ(亜目)分けのポイントです。

Q4 ヤマ科とトンボ科の羽の違いは?  
A 前翅の三角窓(三角形の穴)の形がちがっています。

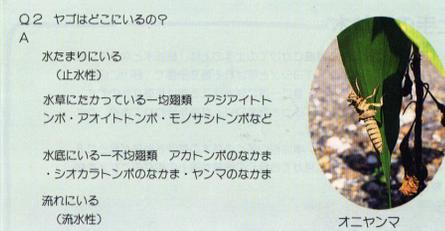


## ヤゴ(トンボの幼虫)の見分け方 Q&A

Q1 ヤゴを見てその成虫の姿がわかる?  
A わかります。トンボの成虫図鑑を見てください。まず最初に大きなグループ分けをしてみましょう。

Q2 ヤゴはどこにいる?  
A 水たまりにいる(止水性) 水草にたかっている一均翅類 アジアイトンボ、アイトンボ、モノサシトンボなど 水底にいる一不均翅類 アカトンボのなかま・シオカラトンボのなかま・ヤマのなかま 流れに流れる(流水性) 水草にたかっている一均翅類 ハグロトンボ 水底にいる一不均翅類 オニヤンマ・サエイトンボのなかまなど

Q3 ヤゴはどようやって泳ぐ?  
A Q1の図をもう一度見て下さい。



## 河原に集まる夏の鳥たち

夏、ハゲ沿いの道ではカッコウの音が響きます。田園通りの街路樹では、セグロセキレイのひなが集立ち、電線にツバメの幼鳥(子ツバメ)たちが集まって列をなして止まっています。

その頃、多摩川ではオギやツルヨシの深い草原から「ギョギョシ、ギョギョシ」とオオヨシキリのにぎやかな声、けれどもなかなかな姿は見えません。空中には大きく山形に羽を掲げて飛ぶ鳥の「ヒツヒツヒツ……チャッチャッチャッチャツ」という音がします。セッカです。河原の砂れき地で「ピツピツ、ピビビ、ピ

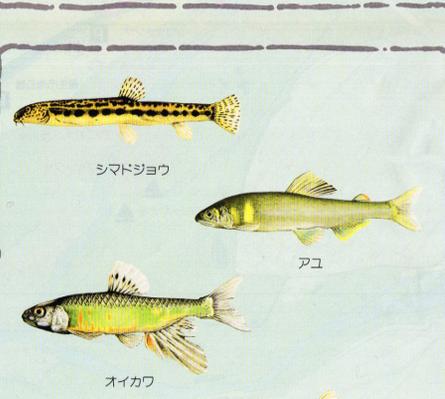


## みくり池のミクリ

五日市線鉄橋の下流、福生団地の笹並木の土手に細長い小さな池があるのを知っていますか。この池は昔の多摩川の流れが取り残されてできたもの(河跡池)です。現在は、土手の上から水面が見えないほどタチヤナギとイヌコリヤナギがおおわれてしまっていますが、かつてこの池にはその名前があるようにミクリという抽水植物(根や茎の下部が水中にある植物)がたくさん生えていました。ミクリという名は美がらちょう菓のいげのようにみえることから付いた名前です。

ではどうしてみくり池でミクリが見られなくなったのでしょうか。原因としては、以下のことが考えられます。

- ・多摩川の流れが安定して池の水位の変動が少なくなったこと
- ・流れ込む水が濁って水質が悪化したこと
- ・砂や泥が多くなってきたこと
- ・池の周りのヤナギが大きく成長し、日当たりが悪くなったこと
- ・今では福生市内ではほとんど自生していませんが、対岸(あきる野市)のやしろ池などではまだまだまとまった数で生育しているのが観察できます。



## 魚の名前をいくつか知っていますか

魚のすみかには沢のような傾向がありました。なる、一線をついた魚は生息数が少ないのです。

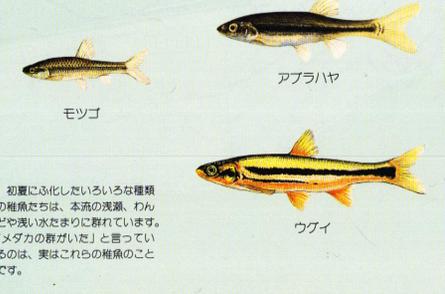
①わき水だまり ホトケドジョウ、シマドジョウ、各種の稚魚  
②本流の早瀬 カジカ、アユ、ウグイ、浅瀬にはアブラハヤ  
③本流の瀬 ウグイ、オイカフ、アユ、アブラハヤ、カワムツ  
④本流そのわんど(入江) 水底にはシマドジョウ、カマツカ、ギバチ、ジュスカゲハゼなどの水底に止まる種類、モツゴ(クチチボ)、オイカフ、各種の稚魚  
⑤池・沼のたまり ギンブナ、ゲンゴロウフナ(ハラブナ)、コイ、ドジョウ、モツゴ(クチチボ)、ブルーギル、ヨシノボリ、ナマズ

川は場所によって流れの速さ、深さ、水のきれいさ、水底の砂泥の大きさなどが違います。これらの違いを反映してそれぞれの魚が適するすみかも変化に富んでいるのです。

筑業組合では、ウグイの産卵期に産卵場所に囲いをして、魚の資源の保護もしています。

ある種の魚が少なくなったり、いなくなったりする原因を考えてみてください。生活排水の流入などによる水の汚染や、わき水だまり、わんどなどの整地、プラインク(入江)などの肉食性の魚の放流もその一因です。

きれいな川の水には、多くの種類の川魚(水生昆虫)がすみ、それを食べる魚の種類も多くなります。また、その魚や昆虫をえさとする野鳥も多くなって、川の自然環境は「ラエティ」に富んで、自然も高くなります。私たち人間には、自然観察も「ラエティ」に富んで、自然も高くなるというわけです。



## 水生昆虫の見分けかた

つりのえきにする川虫などの水生昆虫は、多摩川の本流の早瀬、浅瀬、わんどや池の水たまりなど環境に応じてすみわけをして生活しています。

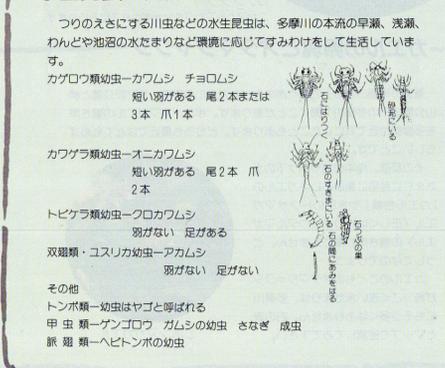
カゲロウ類幼虫→カワムシ チョロムシ  
短い羽がある 尾2本または3本 爪1本

カワゲラ類幼虫→オニカワムシ  
短い羽がある 尾2本 爪2本

トビケラ類幼虫→クロカワムシ  
羽がない 足がある

双翅類→コスリカ幼虫→アムシ  
羽がない 足がない

その他  
トンボ類→幼虫はヤゴと呼ばれる  
甲虫類→ゲンゴロウ ガムシの幼虫 さなぎ 成虫  
脈翅類→ヘビトンボの幼虫



Q1 ヤマ科とトンボ科の羽の違いは?  
A 前翅の三角窓(三角形の穴)の形がちがっています。

Q2 ヤゴはどこにいる?  
A 水たまりにいる(止水性) 水草にたかっている一均翅類 アジアイトンボ、アイトンボ、モノサシトンボなど 水底にいる一不均翅類 アカトンボのなかま・シオカラトンボのなかま・ヤマのなかま 流れに流れる(流水性) 水草にたかっている一均翅類 ハグロトンボ 水底にいる一不均翅類 オニヤンマ・サエイトンボのなかまなど

Q3 ヤゴはどようやって泳ぐ?  
A Q1の図をもう一度見て下さい。

